



漢字の「漢」はなぜさんずいがつくの

「漢」はもともと川の名前だった

「漢」はもともと「漢水」といって、中国の川の名前なのです。陝西省の西部がみなもとで、東に流れて漢口という所から、大河・揚子江にそそぎます。このように、川の意味から、水の流れをえがいた象形文字のさんずいがついているのです。

しかし、漢という字は川の名前だけではなく、中国ではいろいろな名前に使われているのです。ひとつは「天の川」です。「河漢」「雲漢」「銀漢」などといわれます。また中国の中でもっとも多く、人口の95%をしめるのが、漢族あるいは漢民族とよばれています。古くは黄河の中・下流に住んでいたのが、今では中国全土に広がりました。中国人自身も、自分たちを漢といいますが、外国人も中国を漢とよびます。

「前漢」「後漢」という王朝もあった

王朝の名前にも、漢が用いられた時代がありました。紀元前206年に、劉邦が秦という国をやぶって打ち立てた国が「前漢」です。そのあと、一時、王莽に国を奪われましたが、光武帝が再び漢という国をおこしたのが「後漢」で、3世紀まで続きました。

このほか、男子に対する呼び方として使われることがあります。「悪漢」「好漢」「門外漢」などです。（監修・保岡 孝之）

